

家守中連印請書

| 表 | 内 | 代                          | 要                                                                                     | 摘 |
|---|---|----------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|---|
|   |   | 文久元年七月、明治六年<br>(一八六一—一八七三) | 袋<br>表 家守中請書連印帳<br>裏 文久元年酉歲 大村<br>この袋に「家守中連印請書」(文久元年)一冊<br>「家守中請書連印帳」(享和元年)一冊 が入っていた。 |   |
|   |   | 数                          | 量                                                                                     |   |

東京大学経済学部

家守中連印請書

家守中連印請書

家守中連印請書

家守中連印請書

家寄讀書二覽

一從河之儀樣紅為 仰渡清溪趣

望 大地相尋可中事

一火之月心為大地儀列之近年

度軍之河觸紅為 仰渡清溪

自然なる運等。於此中。夫

難なる間。必店をふり。其外

店。江。店。相。迫。り。住。角。に。入。る。

之。由。り。氣。を。能。く。下。す。

一。心。店。を。ふ。り。店。之。限。付。り。其。日。に。入。る。

櫻乃 香殿之相成るは子と櫻

社看 在りとも其趣意清乃

清乃の意と取てし事

付

表同はるるは名

掃除亭にてし事



相法 筆 下 筆 事

付 一

及 乃 匠 師 之 造 作 之 事

下 筆 事

一 種 統 一 之 新 造 物 造 作 事

相 法 筆 下 筆 事

一 我々も世に外なる威風

た作事 相成誠と云ふ

契何相勢可事

一 所儀 付来事 云々 云々

法事一也、相法下名何事！

之新、古、今、誤、多、少、難、成

之、新、古、今、誤、多、少、難、成

之、新、古、今、誤、多、少、難、成

相勢下中事

一 結願事を勿論親類

清利の一切の縁をなす

一 店貸の縁を月名所集助三才

結願店所内は角所集助三才

店貸相康の縁を相親

之其趣意亦不可不察也

之書者性與調若以之相感

若此下事

店員不助之難又令御店にせん

々々場儀之所者儼約事

相守家業如清一色

解於心志未嘗一日忘也

家代志記退後江州渡書

一之遠近一之方域

一、每月由度長家清之知、  
度長

其外、清之知、  
知

清之知、  
知

知

知





一 河店廣用之箱在之御之運

早建之箱在之御之運

但 清江儀日之換板其外之

五 刺之為相深一丁之

● 自分高貴之儀限付御座焉

貴方之勤志清見之者求高内事

相成事  
以高事以知作

● 此合之因高退没皆付也之

以字以地字方以候系以候系

米席の河店に法座下中又

大之條と信書請其遠背

急之度大印相守中作

为其速印仍如外

高和元辛酉月海正

文久元辛酉年

七月

文久元辭年三月

木下八良子信



口年四月日

高橋源之衛



同年四月日

本村吉太郎



文久二年三月

高橋五平信



同年三月

高橋甚造



文久元年三月

木下八郎



明治六年四月日

加村仁信



